

水曜通信 11

2018年
4月

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

第11回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年4月18日（水） 18:30-19:00



説教：松本 宣郎（本学学長）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：G.ベーム「キリストは死の縄目につながれたり」

讃 詠：546番「聖なるかな」

聖 書：コリントの信徒への手紙 | 15章1～11節

讃美歌：331番「主にのみ十字架をおわせまつり」

説 教：「キリストの福音をよりどころとして」

祈 禱

頌 栄：540番「みめぐみあふるる」

後 奏：W.フォークス「アレルヤ」

スタンドグラスが真新しく修復されて帰ってきました。その第1回目の水曜礼拝です。

後奏の後、30分の講話「15世紀ビザンティン壁画にみる〈謙遜〉：後のものは先になり、先のものは後になる」（鐸木道剛教授）をおこないます。

次回第12回水曜礼拝は**5月16日**です。

表紙の枠飾りを更新しました

パリ国立図書館にギリシア語写本139番として所蔵されている挿絵付き詩編の写本。そこから詩人で歌手で牧人のダヴィデを描く第1フォルジオの裏の挿絵の枠飾りを借用しました。「パリ詩編」の名で知られている10世紀のビザンティンのマケドニア朝の名作で、キリスト教以前の擬人像も描き込まれて、マケドニア朝の古代復興つまりマケドニア・ルネサンスの代表作。ダヴィデの後ろの女性は「メロディア」と記されており、メロディーの擬人像。右隅の浅黒い半裸の男は、「ベツレヘム山」との銘文が記され、山の擬人像である。中央の犬は山の擬人像を野蛮な闖入者とみて警戒し睨んでいるところに画家のユーモアもうかがえる。大きさは36×26センチメートル。



第10回水曜礼拝報告（説教：佐藤 司郎、奏楽：小野 なおみ）

2018年2月21日(水) 18:30-19:00

前 奏：J.S.バッハ「天にまします我らの父よ」
讃美歌：39番「ひくれてよもはくらく」
聖 書：マルコによる福音書 15章24～28節
賛美歌：404番「やまじこえて」
説 教：「くじを引いてその服を分け合い」
頌 栄：539番「あめつちこそぞりて」
後 奏：J.ブラームス「装いせよ、おお魂よ」

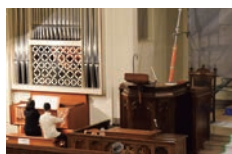
礼拝とその後の19時10分から30分までの小野なおみ氏のオルガン演奏による讃美に32名の市民が参加されました。



礼拝後、小野なおみ氏のオルガン演奏による讃美

F.リスト：バッハのカンタータ「泣き、嘆き、悲しみ、おののき」とロ短調ミサ「十字架につけられ」の通奏低音による変奏曲（1863年）。

1861年、娘の死に直面したリストはバッハのカンタータ第12番「泣き、嘆き、悲しみ、おののき」の冒頭合唱、並びにロ短調ミサ「十字架につけられ」に用いられたラメント・バス（嘆きの低音）をモチーフとしたオルガン曲を作りました。静寂の中にひたひたと湧く悲しみや、心を掻きむしるような叫びの果てに舞い降りる一筋の光…それが曲の最後に出てくる讃美歌80番「わが主の御業は ことごと正し」のメロディーです。「主はわが父なり、なやめる時のわがすくいなり（4節）」という力強い讃美で曲は幕を閉じます。（小野なおみ）



2月24日ラファージ・シンポジウム報告

日時：2018年2月24日(土) 13:00-18:00 場所：ホーイ記念館ホール

本学のラーハウザー記念東北学院礼拝堂にあるステンドグラスと関連付けて、アメリカのステンドグラスの復興者であるジョン・ラファージ (1835-1910) についてのシンポジウムを、日本で初めて (世界でも初めて!) 開催しました。松本学長の挨拶にはじまり、ラファージにみられるキリスト教と多神教的感受性、そのジャポニズムと中世主義との関連、モチーフの借用、フェノロサとオリエンタリズムなど、様々な面についてのレポートがありました。熱心な仙台市民だけでなく、倉敷から京都から名古屋からそして東京から多数の研究者が駆けつけ、日本でのラファージ研究の始まりに相応しいシンポジウムになりました。

詳しくは本学のホームページをご参照ください。

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/info/top/180301-4.html>

英語版はこちら。

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/en/news/180306-1.html>



左からバネリストの有木宏二 (美術史家)、ケイティ・クレッサー (シアトル大学准教授)、フィリス・フロイド (ミネソタ州立大学准教授)、五味良子 (埼玉県立近代美術館学芸員)、趣旨説明の鐸木道剛 (本学教授)。

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂のステンドグラスの修復が終わりました。7ヶ月ぶりに礼拝堂に帰ってきたこととなります。その再設置作業の公開と、修復完了記念礼拝と講演ついで音楽による讃美をしました。いずれも礼拝堂にておこないました。

2月27日ステンドグラス再設置作業公開報告

2月27日(火)の14時から16時まで、ステンドグラス修復を担当された平山健雄氏 (横浜 光ステンド工房代表) が設置の作業を公開しました。作業過程を撮影したビデオの上映は12時から始め、平山氏による解説はパワーポイントを使って14時から始まりました。130名の市民が参加し、講演のあとには専門的なレベルに及んで多数の質問がありました。ステンドグラスのこのような公開は日本で初めてで、仙台市民の関心の高さもうかがわれました。



3月2日ステンドグラス修復完了記念礼拝報告

13時より野村信（本学教授、宗教部長）の司式で記念礼拝が執り行われた。聖書はルカ伝の昇天の記述を朗読し、讃美歌は66番（せいなるせいなる）と168番（イエスキミの御名に）を歌った。奏楽は今井奈緒子（本学教授）。

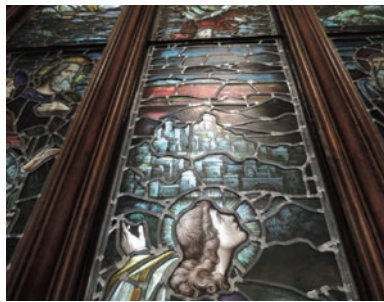
礼拝のあと、13時半より平山健雄氏が「甦るひかり」と題して、若き日の南仏コンクでの光の体験を語り、ステンドグラス芸術の意味について講演。

休憩を挟み、今井奈緒子のオルガンと中川郁太郎（本学宗教学音楽研究所特任准教授）の独唱によるコンサートが行われた。教会の暦が、ステンドグラスに描かれた「昇天」に至る、復活前の四旬節を歩んでいることを覚えて、バッハ作曲による受難のコラール編曲や、カンタータのエリアが選ばれた。「成し遂げられた」は、ヨハネによる福音書に記されたイエスの十字架上の最後の言葉であり、ステンドグラスの修復が成し遂げられたことを重ねた意味を持つ。後半ではメンデルスゾーン、そしてこのステンドグラス発祥の地イギリスと、その時代を生きた作曲家達（エルガー、パーシーなど）による讃美歌や作品が演奏された。

グリークラブOB合唱団は、黒人霊歌（スピリチュアル）から「ステイール・アウェイ」など3曲を歌い、最後はOB合唱団定番の讃美歌405番「かみともいまして」を歌った。

美しさを取り戻した美術と音楽による讃美によって、まさに詩編148編ですべての被造物が神を讃美する、それが実現したかのよう。参加者は140名でした。

なお明るくなったステンドグラスは、夜は外から見えます。東北学院のメッセージは、こういう形でも市民にも向けられているのです。



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第11号

2018年4月10日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/